

【表紙】

映画読本第十一課
迎春風土記
第一卷

【裏表紙】

【1頁】

(発声フィルム)

迎春風土記

全一卷 二七七米

台湾総督府

○第一号

検閲済

有効期間

自昭和十六年一月六日

至昭和十九年一月五日

障害ナシ

【2頁】

【3頁】

大毎東日映画読本 第十一課

迎春風土記 全一卷

製作 大阪毎日新聞社

東京日日新聞社 映画部

梗概

忙しく暮れて行く師走月、千々歳々に繰り返す迎春準備を紹介するに当って、伊勢海老、鯛□□、栗、□□、更に串柿、注連縄、大箸の製造、□□の初出し、盆栽、羽子板、成風の製造、餅つき等を収め、新体制下の国民として虚礼を廃止し、萬事質素を旨とすべきを倣へて、迎春の心得を示す。

内容

【3頁、上段】

字幕

- 1 大毎東日映画読本
録音RCA 東映シネマ
- 2 第十一課
- 3 迎春風土記
- 4 (スーパ―)
みなをがめ
二見の七五三を
年の暮れ 芭蕉

【3頁、下段】

音

- 1 (音楽)
- 2 (解説)
忙しく暮れて行く師走――
事□下に迎へるお正月を、私達国民は、どのような気持ちで、又どのような□で迎へる可きでせうか？
- 3 (解説)
萬事質素を旨として、豪華な形式や、内容の伴は破り虚礼を廃止する事は云ふまでもありません。そして、祀くまで全一億国民が。心を一つにして清浄な神気を以て、清々しい新春を迎へねばならないのです。

【4頁】

こゝ伊勢湾は伊勢海老の発生地であります。注連衡、蓬栄等に用ひられる新海老が、一網毎に、漁船の底に殖えて行きます。それは見てゐて、誠に海の中の豊かさで、感動せずには居られない風景です

4 (解説)

海の幸と云へば、もう一つ、二尺前余の大鯛が釣糸に踊る澄漱とした美しさをご覧下さい。おめでたいお正月に、之等の鯛を食膳に乗せて、一家一門が新しい団欒の中に、一年の力強い英進を心に誓ふ事の出来るのは、誠に日本国民にのみ与へられた特権とも云ふ可さであります。

5 (解説)

豊かなる海に少しも劣らず、山の幸も又、きわめて豊であります。蜜柑は一番私達に親しまれてゐる冬の果□で、殊にお正月の家庭には、欠く事の出来ないものであります。前線

の兵隊さんたちも、お正月の野戦料理に添へられた一つの蜜柑に、故郷のお正月をしみじみと味わうのでさうです。私達も今度のお正月に、蜜柑を頂く時には、前線の兵隊さん達の労苦を思ひ乍ら、感謝していただかねばなりません。

6 (解説)

栗も亦お祝いの一品として必ず使はれてゐるものであります。かち栗と云ふカチの訓が勝利の勝に通ずる処から、祝物とされて来ました。全国至る処の山や林で栗は沢山に取れてゐますが、中でも丹波の大栗が最も愛賞されて来ました。

7 (解説)

之もお正月の一面として知られてゐる串柿で、秋も盛りの頃から渋柿の皮を剥いて竹の串にさし、之を軒先につるして乾すのです。いつの間にか酸味はすっかりとれて白い瓊を吹き出すやうになると、そろそろ地面には向朝霜が降りて来ます。そして此の串柿は何とも言へない甘さを増して来るのです。

【5頁、上段】

5 (スーパ)

うらじろき

積みたる調厘に

注連作 止有

6 (スーパ)

松林に

虹梅開き

□かな

□全

【5頁、下段】

8 (解説)

注連縄、蓬菜佃等に用ひる□□は、又別に裏白、穂長、山草等とも呼ばれてゐます。之は夫婦の□□を祝ふとか、又齢を重ねる□に依つて祝とされて来ました。お正月の筒景な中にも、何か一入り清らかな感じのする飾り程快いものはありません。盛岡の□□の美しさの中には、斯うした自□のものを、その俣に取り入れた素朴な構成美がある事を知らねばなりません。

9 (解説)

注連縄は又、飾縄とも云はれ、穢れが内に入らぬために飾られるものなのであります。お正月の清らかさは、誠にその注連縄に依るものでありませう。遠く神代の昔から、注連縄を飾つて其の清浄を保つ事を念として□た日本国民の正しい心こそ、今後先の俣永遠は複まに博べねばならないものであります。正しい心の下に、飾る事に致しませう。

10 (解説)

之はお雑煮を祝ふ時の大箸を削つてゐる処であります。雑煮箸、或いは柳で作る所から、柳箸とも呼ばれて居ります。その昔、足利義将將軍が、元朋の儀式に箸を折り、その秋死亡した処から、弟義政の代に至つてこの大箸を作らせたのが、事の起りと云はれて居りますが、何れにしる、おめで度いお正月の親睦を麗ふ時に、箸の折れたりする事のない様に、他大箸が用ひられる訳です。

11 (解説)

さて、お正月を象徴する門絵については、□は豪華を避けて、飽くまで債実を旨とせねばなりません。一对數十円と云ふ様な豪華なものは一切廃止し、新体制のお正月に相応しい門絵を飾る事に致しませう。

竹飾りなども、□□□□に反する豪華な飾り付けは、絶対に排撃し、飽くまで慎しくお正月を迎へませう。

【6頁、上段】

7 (スーパ)

餅つきや

【6頁、下段】

お正月の盆栽として、□□□□とは福寿草などが、家々の床飾りに使はれてゐますが、之も門絵と同様に、専らはその□数の高いのを競つて得意がる様な事があつては、式日の□の御祝ひにはならないのであります。

清□な一鉢に新しい年を祝ふ□□□さへ揃つてゐたならば、その一鉢は十全に投じた□□にもまさる□□ずなる事を、時布下の国民は知っている筈です。

12 (解説)

女の子のお正月は、羽子板です。大学ではういういしい□□の羽子板や、何十円といふ鷹人司き高価な羽子板が店先に飾られて、乙女心に由なき誘惑を試みてゐたものであります。卸し業者達の自粛自戒に依つて、ここにも新体制の現はれが見られてゐる事は、嬉しい限りと言はねばなりません。

13 (解説)

女子の羽子板に対して男の子には凧があります。『お正月には凧揚げて独楽を廻して遊びませう』と謡はれてゐる通り、そして更に『もういくつ寝るとお正月』とあるやうに、子供の夢は、お正月と凧をめぐつて楽しく繰り展げられてゆくのであります。この楽しい子供の夢は、優しく守つてやらなければなりません。□□□□な□の時代の国民を育て上げて行くためにも体制向上のためにも、凧と子供とは絶対に切り離してはならないのであります。

年の□が立って、□つ□が□□□めると、誰しもが師走の□を深めます。

14 (解説)

その頃には威勢のより餅□□の□の音が聞こえて着て付かない人の心を□る下の様に感じ
□□□□す。お餅は正月の最も重要な時己で、□代の頃からあったものと□□□□て居り
ます。若くは、かちんと呼ばれ、昔、重仁天皇の御代赤と□の□□□□□□□□□□って、国
内は災厄な□□、祈ら

【7頁、上段】

8 製作

大阪毎日新聞社

東京日日新聞社

終

【7頁、下段】

せ給ふたとあり、正月に用ひられる様になったのは平安朝の頃からであります。斯うした
古い権威と歴史につながるお正月のお餅こそは、日本人にとって絶対になくしてはならぬ
ものであります。

さて、私たち国民は、新年の意味に就いて深く考へ、一年の計は元旦にありとの諺を心
に銘じて、翼賛なる決意の下に、新しい年を迎へてこそ、多くの希望は、自ら湧くのであ
ります。

S (音楽伴奏)

“完”

【データ採録者：古賀淳子】【校正：森田健嗣】